

令和4年12月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 令和4年12月20日(火) 開会 午前10時 1分
閉会 午前10時56分

場所 第1委員会室

出席委員 立石泰広委員長
細田善則副委員長
関根信明委員、木下博信委員、小川真一郎委員、諸井真英委員、
宮崎栄治郎委員、江原久美子委員、深谷顕史委員、田並尚明委員、中川浩委員

欠席委員 なし

説明者 [県民生活部]
真砂和敏県民生活部長、市川善一県民スポーツ文化局長、
浪江美穂スポーツ振興課長

会議に付した事件
スポーツの振興について

関根委員

- 1 アスリートの発掘・育成・支援体制について、プラチナキッズ・プラチナジュニア・プラチナアスリートの3段階で取り組んでいるが、どのような成果があったのか。
- 2 アスリート就職支援について、具体的にどのような取組を行ったのか。
- 3 県民がスポーツを楽しめる機会の拡大について、総計的に集計しているのか。県民がスポーツを楽しめる機会を拡大していくためにどのような工夫をしているのか。

スポーツ振興課長

- 1 事業を開始した平成23年度から令和3年度までで、プラチナキッズとして育成した修了生は328名である。全国大会への出場数は延べ290名、そのうち優勝が61名である。国際大会への出場数は延べ28名、そのうち優勝は6名となっている。プラチナキッズを修了し、中央競技団体の強化指定選手やプラチナアスリートに選ばれて、今後国際大会で活躍が期待されるアスリートが育っている。
- 2 現在、アスリートの登録数7名、企業の登録数25社、マッチング数16件、内定6件となっている。マッチングに成功した企業とアスリートからメリットをお話いただく機会、個別相談ブースでアスリートが企業に相談できる機会を作っている。また、県内経済団体、金融機関に御協力いただき、関係団体や取引先へのPRをお願いしている。県職員がスポーツ系大学へ赴き、事業説明も行っている。今後、2月のビジネスアリーナにおいて直接企業に対して本制度のPRをしていく。
- 3 毎年、市町村に生涯スポーツの実態等に関する調査を行っており、市町村主催のスポーツ大会について統計をとっている。昨年度分は現在調査中であるが、平成30年度は965件のスポーツ大会やイベントが開催された。その後、令和元年度は879件、令和2年度は348件と減少し、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントができない状況があったことが推察される。工夫している点としては、オリンピック等で注目を集めたボルダリングやスケートボードを体験する機会を作ること、若者の注目を集めているeスポーツなどを通じて県民に多様な機会を作ること心掛けていく。

関根委員

アスリートの発掘・育成・支援体制における課題は何か。

スポーツ振興課長

プラチナキッズは非常に人気があり倍率が高いので、もう少し機会を増やしたいと考えるが、現在のサポートスタッフの数や場所の確保の問題などもあり、予算の範囲内で行えるのがこの規模となっている。市町村や大学等と連携するなどの工夫をして、機会を増やしていきたい。

田並委員

- 1 アスリート就職支援は、以前日本オリンピック委員会が行っていたアスナビと同様の取組なのか。マイナースポーツの選手についての支援はどうなっているのか。
- 2 プラチナキッズ、プラチナジュニア、プラチナアスリートの関係性はどうなっている

のか。それぞれのプログラムが終了した後はどのような支援を行うのか。

3 プラチナキッズ等の費用はどうなっているのか。

スポーツ振興課長

- 1 アスナビは国の施策でエリアを限らない事業である。アスリート就職支援は本県の競技力向上のためのもので、県内に就職して競技を継続してもらいたいということで、県内の企業に絞って実施している。マイナースポーツの選手については、例えば、ボウリングやスキーのアルペンの選手等の社会人チームがないアスリートがこの制度を利用していることが多い。
- 2 プラチナキッズを修了した後、ジュニアに選ばれて残る人もいる。プラチナキッズで培った能力を部活動やクラブチームで発揮している人もいる。プラチナジュニアは、その能力を競技団体からも認められており、競技団体の方から自分たちの団体の練習に参加しないかという声を掛けることもあり、新たな競技に出会う機会もある。高校生以上については、競技団体が十分なサポート体制を整えている。
- 3 交通費は個人の負担となるが、それ以外の専門家の講師料などは県の予算で実施している。

深谷委員

- 1 アスリートの就職支援について、令和4年度からパラアスリートの登録を追加したとのことだが、現在の状況、実績はどうか。
- 2 受入れ企業の拡大が重要であると考えているが、増加していない現状がある。課題は何か。

スポーツ振興課長

- 1 現状、パラアスリート登録は1名である。企業側からパラアスリートを応援したいという需要があり、早速パラアスリートを含む形で取組を始めた結果、車いすのアスリートが登録している。
- 2 勤務形態や練習会場など、アスリートと企業のニーズや条件が合わないことがあり、思うようなマッチングに至らない現状がある。取組の中で県内企業へのアピールをしていきたいと考える。

深谷委員

身近に県内で活躍するアスリートがいるという状況は、県民にとってスポーツを身近に感じる機会となる。また、応援をしたアスリートが引退した後に指導者となって恩返しするという好循環がスポーツの振興に寄与すると考える。そのような大きなイメージを持って取り組んでもらいたいと考えるが、見解を伺う。

スポーツ振興課長

現在は、アスリートに埼玉県スポーツ協会の「彩の国スポーツ推進パートナー登録制度」に登録していただいて、プラチナキッズやプラチナジュニア事業における後進育成、保護者向けの講演会、技術指導に携わっていただいている。令和5年度からのスポーツ推進計画には、アスリートのセカンドキャリアとして次世代の育成に当たってもらえるような内容も盛り込み、県としても後押ししていきたいと考える。

小川委員

- 1 プラチナキッズ事業の最終的な目的は何か。
- 2 トップアスリートの育成と県民のスポーツ振興との両立は可能なのか。

スポーツ振興課長

- 1 我が国のスポーツの支援体制は、健常者については中央競技団体、あるいは国の強化指定選手というような形になっていくので、県の支援としてはそこに押し上げるまでを範囲としている。ただ、目指しているのは、世界で戦えるアスリートである。
- 2 スポーツの振興については、スポーツ実施率の向上が大きな柱である。その中で、競技者に対しては競技力の向上の支援をする。もう一つは誰もがスポーツを楽しめる機会の提供をする。この両輪で進めていく。

小川委員

プラチナアスリート等の選考において、各競技団体との連携はどうなっているのか。

スポーツ振興課長

各競技団体及び県スポーツ協会、当課で連携し、評価の基準を基に選抜している。

諸井委員

- 1 プラチナ事業の規模感は適正なのか疑問である。対象が広すぎるのではないか。どのような競技や種目で何を目指してやっているのか。
- 2 プラチナ事業の対象競技には団体競技もあるが、少人数で練習しても成果が出ないのではないか。どのような場所や環境で実施しているのか。
- 3 県内施設を活用して、eスポーツのイベントをもっと開催した方がよいのではないか。例えば、埼玉スタジアム2002の空いているスペースをeスポーツのイベントなどに活用できるのではないか。また、プロスポーツと協力して取り組むと効果が高いのではないかと考えるが、見解を伺う。
- 4 県内3チームあるが、WEリーグを盛り上げるために、具体的にどのような取組を行っているのか。
- 5 県民がスポーツを楽しめる機会を拡大するために、パブリックビューイングをふだんから県内施設で行うことについて、検討したことはあるのか。

スポーツ振興課長

- 1 プラチナ事業は、世界の舞台で活躍するアスリートを育成する事業である。各競技団体の規模が大小様々であることから、県では各競技団体の目標に沿って支援を行っている。
- 2 例えば、プラチナジュニアについては、ラグビーは昌平高校に強化をお願いしており、昌平高校のグラウンドで一緒に練習をしている。ボートは戸田漕艇場でクラブチームの選手と練習を行い、力をつけている。プラチナキッズについては、上尾市のスポーツ総合センターで測定や講習会を行っている。できる限り良い環境で競技ができるよう実施している。
- 3 今回、ワイルドナイツと組んで、熊谷スポーツ文化公園のラグビー場でeスポーツのイベントを行ったところ、ワイルドナイツの人気によって応募数も高まり、eスポーツ

ファンの視聴率も高かった。この実績を一つのスモールスタートとして、他のプロチームや他の場所での実施についても検討していく。地域の魅力を上げていく意味でもeスポーツは効果的であるので、今後の検討材料としたい。

- 4 WEリーグは観客動員数5,000人を目指しているが、実際は1,000人から2,000人程度である。そこで、WEリーグ、県内3チーム、県内マスコミ、ホームタウン市、大学をメンバーとした気運醸成委員会を設置し、WEリーグを盛り上げるための企画を検討し、実施している。例えば、リーグ戦の中で県内3チームが対戦する試合を埼玉ダービーと位置付けて優勝チームに知事杯を授与する取組を行ったり、3チームのPRを県民手帳の見開きに掲載したり、親子サッカー教室を開催するなど多様な取組を実施している。
- 5 例えば、ラグビーのパブリックビューイングについては、ラグビーワールドカップの開催都道府県との協議により実施を決めているが、他のイベントとの兼ね合いがあり、調整が難しい。スポーツ振興課としては、「見る」スポーツが県民にスポーツに関わっていただく良い機会と捉えているので、いろいろな形で工夫をしていく。